

日本史 課題確認テスト(2)

1. 弥生時代になると水稲農耕が始まる。弥生時代前期に稲作の穂首刈りのために使用した以下のような磨製石器のことを何というか。



2. 水稲耕作が始まり余剰生産物が発生すると蓄積された富や水利・可耕地をめぐる戦争が起こるようになる。この際、形成された防御的な集落のことを何というか。

3. 上記2のような集落の代表的な例として有名な佐賀県にある遺跡は何遺跡か？

4. 上記2に関して、瀬戸内周辺に発生した戦乱を避けるための逃げ城的な集落のことを何というか。

5. 弥生時代になると盛り土を盛った墓が出現するが、方形の低い墳丘のまわりに溝をめぐるような墓のことを何というか。



6. 日本では青銅器と鉄器がほぼ同時期に伝わったので、青銅器は祭器として用いられるようになった。朝鮮半島の鈴に起源をもち、主に近畿地方に分布する図のようなものを何というか。



7. 上記6の他、銅矛が16本、銅剣が358本も埋められており、出雲の王権に注目が集まった島根県の遺跡を何というか。

8. 弥生時代については中国の歴史書からその様子を知ることができる。以下のA~Bの中国の歴史書を答えよ。

- A 「夫れ楽浪海中に倭人有り。分れて百余国と為る」
- B 「建武中元二年、倭の奴国、奉貢朝賀す…桓・靈の間、倭国大いに乱れ、更々相攻伐し、歴年主無し。」
- C 「倭人は帯方の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす……邪馬台国に至る」

年 組()氏名
1
2
3
4
5
6
7
8 A
8 B
8 C

得点

採点者
